

田畑の草種

振花・縷摺 (ネジバナ)

ラン科ネジバナ属の小型の多年草。湿っていて日当たりが良く、背丈の低い草地や芝生などによく生育する。花茎は 10cm から 40cm、花序は 5cm から 15cm ほど。花色は通常淡紅色で小さな花を水平にかつらせん状につける。らせん状に花をつけることから「ねじばな」の名があるが、らせんの向きは右巻き、左巻き、また、途中で向きが変わるものまである。

日本在来であることから、古人の目にも留まっていたと思われるが、万葉集にはそれらしき花を詠んだ歌はない。ただ、第 14 卷の東歌の中の相聞歌に 1 首だけ、

芝付の御宇良崎なるねつこ草

あひ見ずあらば吾恋ひめやも

(あなたに逢うことがなければ、私はこんなに恋に苦しむことはなかったのに)

という歌があり、この「ねつこ草」が「ねじばな」だという。

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

しかし一方で、この「ねつこ草」は「根っ子」の大きな「翁草」であるとも。「ねじばな」も「翁草」もともに「根っ子」は大きい・・・。

日本雑草学会の HP に「雑草名リスト」がある。現在 894 種が挙げられているが、その中で唯一ラン科の「雑草」として挙げられているのが本種である。そもそも「ラン」というと高貴な山野草で、「レッドデータブック」に挙げられるものがほとんどであり、人里で「雑草」のごとく生育するのは本種だけ。しかしやはり「ラン」は「ラン」であり、愛すべき可憐な花の一つである。

その可憐な花がねじれて咲く様に人生におけるねじれをみる人もいる。大西民子の歌にこんなのがあった。

なすことのなべてよぢれてゆく如き

思ひに仰ぐもじずりの花